

ひまわりからの メッセージ

62号

2016. 6. 13.

NPO ひまわりの花内
西濃園域

発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

梅雨の季節の 傘の思い出



雨が続き、傘が手放せない季節になりました。

私には、傘にまつわる思い出が二つあります。一つは小学校時代。私は体が弱くてすぐに高熱を出し、肺炎をおこすような子どもでしたので、学校をよく休みました。だから学校に行ける時は楽しくて仕方ありませんでした。

梅雨の頃は、よく傘をこわして母に叱られていました。雨降りの朝は傘をさして登校するのですが、帰りには晴れて傘がいりなくなると、ついつい傘で遊んでしまうのです。近くに流れている小川に傘をつっこんで、傘の中に水を溜め、反対に向けて、シャッと水を流すのですから、新品の傘もたまには壊れていました。決して豊かではなかった家計の中で、きっと母は苦勞をしたに違いありません。泣き虫の私が元気に登校できるよう

になると、いつもこんな調子で、いたずらを探しているような子どもでした。

そんな私が高校生になり、知人がピンクの花柄の折りたたみ傘をプレゼントして下さいました。校則では、黒又は紺と決まっていたのですが、私はうれしくて、ある曇空の日、その傘をかばんにしのぼせて持って行ったのです。ところが、その傘が紛失してしまいました。叱られるのを覚悟で担任の先生に報告に行きました。「どんな傘だ？黒か紺か。」「いえ、ピンクです。」「持つ所がピンクか。」「いいえ、布の所がピンクの花柄です。」「そうか……花柄か……。でも今度買ってもらう時は、黒か紺にしてもらいなさいよ。」

五十年前の先生との会話と、その時の先生の声までも、今も思い出すことができます。校則を破ったことを叱るでもなく、さり気なく諭された先生のことは、ずっと私の心に残ったのでした。

その後も先生は、私の大学時代の保証人となり、福祉の道に進んだ私を、ずっと亡くなるまで見守って下さいました。よほど私は心配な生徒だったのでしょうか。叱らないことで私の心を温かく包んで下さった先生のことを、この季節になると思い出し、私もそんな人になりたいなあと思うのです。

先生が大垣南高校の校歌の作詞者であったことも知ったのは、ずっとずっと後のことでした。

「こだわり」について

私にも「こだわり」はあるけれど……



お母さん方の相談も多かったり、学校訪問をしていると、子どもたちの「こだわり」が問題になることが多くあります。

- ・テスト用紙にバツをつけられると怒り出す。
- ・テストが満点でない気がすまない。
- ・順位のつくものは一位になりたがる。
- ・ゲームなどで勝たないと気がすまない。
- ・多数決で自分の意見が通らないと納得しない。
- ・決まったことを守らない友だちをしつこく非難する。
- ・大人の発言にこだわる。
- ・同じ遊びが嫌い。
- ・一度決めたことは変更できない。

書き出したら、きつときりがないでよう。でも、特別支援教育がはじまって十年。ずいぶん理解は広がってきていることも実感しています。

以前だったら、「わがまま」「自分勝手」と決めつけられてきたことが、実は気持ちまでコントロールしにくい子であるという認識でかわることが増えました。

テスト用紙にバツをつけられるのも嫌がる子がいるクラスでは、

あえてバツをつけず、直してきた時に別の色でまるをつけて満点にする先生もいらっしゃるようです。何もバツをつけることにこだわる必要もありません。まちがいがわかって直すことができれば良いわけです。

順位のつくものは一位になりたがる。ゲームなどで勝たないと気がすまない子には、「一位になりたかったよね」「勝ちたかったよね」と、まず本人の気持ちに共感した上で、「ルールだから仕方がない」ということを根気よく教えていくしかないのだからと思います。

遠い昔に、父が中国の人のことを話してくれたことがありました。「日本人は、理不尽なことも、すぐに自分かりました」と言うけれども、中国の人は『没法子（メーファーズ）』と言うんだよ。自分は納得してはいないけれど、仕方がない。しょうがない」という意味なんだけど、考えさせられたよ……と。

おそらく、こだわりの強い発達障がいの子たちにとっては、自分が勝って一位になりたかったのになれなかった、負けてしまったということは、受け入れがたい事にちがいません。でも、そんな時のことばとして「仕方がない」を自分を納得させることばとして使ってみたらどうかと思います。そういう時の合言葉として、「がまん」のポーズも並行して使ってみて、怒らずにがまんできたことをほめてもらうことで、自信もついてくるのではないかと考えられるのです。

「こだわり」は決して短所ではなく、「決められた」ことを、きちんとやり終える」という長所にもつながっていくものです。

けれども「Oさんは、自分ではやうないのに人にばかり注意するんです」と反論されそうです。そして、「人のいやがることばかり言ってる人になります。トラブルメーカーです」。そうではうね。きっと、そうだと思います。でも、Oさんは、人の気持ちになって考えるとは苦手です。自分が言ったことで相手が傷ついていると気づかないし、全く悪気がないのです。

「なぜ、そんなことを言うの」。相手の気持ちになって考えてみない。「そんなことを言われたら、相手はどんな気持ちになると思うの」。など、気持ちかわからないことを責めたり、気持ちの理解を促すようなことばかりをしまいがちですが、それは子どもたちをよけいに追いつめていくことになるでしょう。「あなたは」と思って注意してくれたんだよね。「君は」と感じたんだね」と、その思いをことばにして代弁して「こういう言い方もあるよ」と、別のとうえ方や別の表現の仕方を教えていくってほしいと思います。

日々の日課の変更や、決まっていたことの変更も混乱をきたします。今まで土曜日は休みだったのに、土曜日でも学校に行かなくてはならなくなると、「なぜそうなの？」「わけが分からん」「理由を知らせろ」などとパニックになってしまった子どもたちもいました。変化にうまく適応できないからな

のです。決まりの変更は、とても大変なことなのです。しかも自分で決めたことを変更できなくて困ってしまう人がいることも、私は最近、身近で知りました。成人になった彼は、ある程度自分の困り感も知っていて、日々スケジュールを作り、それにそって生活していました。私は、まあ何とかうまくやっているのだと思っていたのですが、「最近、調子が悪くて困っています」というSOSの電話がかかってきました。よくよく聞いてみると、スケジュール通りに事がうまく運ばず、やり残しができてしまうようなのです。スケジュールをやり終わらないので、夜遅くまで（時には朝まで）やることになり、彼は疲れきってしまったのです。「今時までにやり終わらなかった時には次の日に回す」というルールがなく、彼はその日にやり終わらうと必死になつてがんばり、疲れってしまったのです。「できなかったら次の日のスケジュールに入れる」とことごとスケジュールの立て方にも気をつけて、余り欲ばらずに、一日でできることをスケジュールに入れることにしましたが、さて、これからは、どうでしょうか。私にSOSが来ることがないように願っています。

家庭でも変更することがあるかもしれない時には、前もって変更があるかもしれないことも伝え、書いておくことも大切でしょうね。「面倒ですね」という声が聞こえる気がします。が、困っているのは子ども自身ですから……。

「こだわり」は、誰にでも多少はあります。自分がこだわっていることが他人によって無視されたり、自分の思いとちがうことをされたりすると、気持ちのいいものではありませんね。けれども、発達障がいの子どもたちにとっては、不安や恐怖などもひきおこす程のことであることを知っておくべきでしょう。

感じ方や見え方、聞こえ方などは、人それぞれに違います。子どもたちが自分と同じではないことを知っていることは当然のことですが、自分の子どもものこともよく知っていると思っているお母さん方であっても、時には「どうして……？」ということも多いのではないのでしょうか。とにかく、子どもと関わる人の中にも「言えは分かる」と信じている大人の何と多いことでしょう。そして、理由が言えない子どもたちに向かって、「どうしてそんなことをしたの？、ちゃんと口で言うてごらん」とか、「言わなかったら分からないでしょ」と、子どもたちは責められます。子どもたちに対して、本当にあなたのことは通じているのでしょうか。子どもたちの心に届いているのでしょうか。分らないから、子どもたちは分かったふりをし、あなたから何とか逃げようとするのではないのでしょうか。

子どもたちのこだわりは、もしかしたら、自分がわかっていること、自分の思っていることをくり返すことが安心だからというところもあるのではないのでしょうか。

「好きなことにはこだわって、いつまでもやっています。でも

苦手なことは手をつけません」という話もよく聞きます。理解できないことや、過去に失敗したことなど、好んでやりたくないのは当然でしょう。いつまでもやっていることは、自分に出来る安全な活動といえると思います。

「私は、この子のこだわりを無くしたいと思っています」と言われた先生がいらっしゃいましたが、私たちにできることは、そういうことではないのです。子どもたちのこだわりやマイルールには、別の見方もあり、別の考え方、別の遊び方もあるということを知らせ、世界を広げていってあげることではないでしょうか。それも、その子が理解できる方法で……。

井川典克先生の

保護者向け 講演会

「発達障害の子の家庭療育」

7月9日(土) 午後1時～3時

場所 ソフトピア汐パンセンター
セミナーホール

(場所が変更になりました)

※ 保護者向けですが
お聞きになりたい方はどうぞ！

申込先: himawarinohana_0210@
yahoo.co.jp

※ 定員になり次第しめ切ります。

3時～相談されたい方は予約
相談にあたるのは、中野、高田。